月　日 名前

／100点

【答え】

【小4】国語 文章問題　物語文 2

つぎの文章を読んで、後の問題に答えましょう。

いなかのおばあちゃんから、はがきがとどいた。大きな字で「ゆうとへ　元気ですか。畑のトマトが赤くなりました。夏休みに食べに来てね。」と書いてある。字は少しふるえていた。

「おばあちゃん、手がいたいのに書いてくれたのよ。」

お母さんが言った。おばあちゃんは、この春から手の指がいたくて、はしを持つのも大変なのだそうだ。

ぼくは、電話でお礼を言えばいいと思っていた。電話ならすぐにすむ。でも、はがきの字を見ていると、それではいけないような気がしてきた。この短い文を書くのに、おばあちゃんはどれくらい時間がかかったのだろう。

ぼくはつくえに向かって、はがきを書きはじめた。「トマト、楽しみです。」と書いたところで、手が止まった。もっと書きたいことがあるはずなのに、うまく言葉にならない。ぼくは何回も書いては消し、消しては書いた。

やっと書き上げたはがきには、学校のこと、友だちのこと、それから「手、はやくよくなってね。」と書いた。いつもより、ていねいな字になっていた。

ポストにはがきを入れると、ことんと小さな音がした。おばあちゃんがこれを読むところを思いうかべると、ぼくの口もとは、なんだかゆるんでくるのだった。

（この問題のための書き下ろし）

問一　おばあちゃんのはがきの字は、どんな様子でしたか。本文から十字までで書きぬきましょう。

少	し	ふ	る	え	て	い	た		

問二　「それではいけないような気がしてきた」とありますが、ぼくがそう思ったのはなぜですか。いちばんあうものを、ア～ウから一つえらびましょう。

ア　手がいたいのに時間をかけて書いてくれたはがきには、はがきで返したいと思ったから。

イ　電話をかけると、お金がかかるから。

ウ　お母さんに、はがきを書きなさいと言われたから。

ア

問三　「何回も書いては消し、消しては書いた」とありますが、このときのぼくの気持ちを、四十字までで書きましょう。

おばあちゃんにつたえたいことがたくさんあるのに、うまく言葉にできずまよう気持ち。																			

問四　はがきを書き上げたとき、ぼくの字はどうなっていましたか。本文から十五字までで書きぬきましょう。

いつもより、ていねいな字																			

【小4】国語 文章問題　物語文 2　答えと解説

問一（二十五点）　答え：少しふるえていた

解説：一つ目のまとまりの最後の文から。手がいたいことが、字にあらわれている。

問二（二十五点）　答え：ア

解説：すぐあとの「この短い文を書くのに、おばあちゃんはどれくらい時間がかかったのだろう」から。イ・ウは本文に書いていない。

問三（二十五点）　答えの例：おばあちゃんにつたえたいことがたくさんあるのに、うまく言葉にできずまよう気持ち。

解説：すぐ前の「もっと書きたいことがあるはずなのに、うまく言葉にならない」から。二つが入っていれば正かい。

採点のポイント（二つそろって満点、一つなら半分）

①おばあちゃんに書きたい（つたえたい）ことがある

②うまく言葉にならず、まよっている

問四（二十五点）　答え：いつもより、ていねいな字

解説：六つ目のまとまりの最後の文から。おばあちゃんを思う気持ちが、字にあらわれている。

free-print.net　|　文章・問題は free-print の書き下ろし　|　学校・塾での印刷・配布は自由です